



2022年5月13日

各位

ENEOSホールディングス株式会社

ENEOSグループのカーボンニュートラル計画について

当社（社長：齊藤 猛）は、ENEOSグループの自社排出分のCO₂について、カーボンニュートラル実現に向けた計画を新たに策定しましたので、お知らせいたします。

ENEOSグループは、長期ビジョンにおいて2040年のありたい姿として低炭素・循環型社会への貢献を掲げており、2020年5月に再生可能エネルギーやCO₂フリー水素、EVを中心としたモビリティ事業の推進等により、自社排出分のカーボンニュートラル実現に向けて取り組むことを公表しました。今般、日本政府の掲げるCO₂削減目標やカーボンニュートラルの基準に関する国際的な議論など、国内外の情勢変化を踏まえ、新たに計画を策定しました。

今般策定した計画では、エネルギー安定供給に不可欠な国内事業基盤を維持しつつ、ENEOSグループのスコープ1、2^{※1}のCO₂排出量について2040年度までにネットゼロを実現するとともに、2030年度までに2013年度対比46%の排出量削減を目指します。この目標を達成するため、CCS^{※2}事業やCO₂除去（森林吸収など）に取り組めます。

さらに2050年度に向けて、政府や他企業と歩調を合わせてスコープ3^{※1}の削減に取り組み、カーボンニュートラルの実現を目指します。

- ※1 スコープ1：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出（燃料の燃焼、工業プロセス）
- スコープ2：他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出
- スコープ3：スコープ1、2以外の事業者のサプライチェーンにおける間接排出

- ※2 CCS：Carbon dioxide Capture and Storage（CO₂回収、貯留）
- 製油所などから排出されたCO₂を、他の気体から分離して集め、地中深くに貯留・圧入する技術

【ENEOSグループのカーボンニュートラル計画】

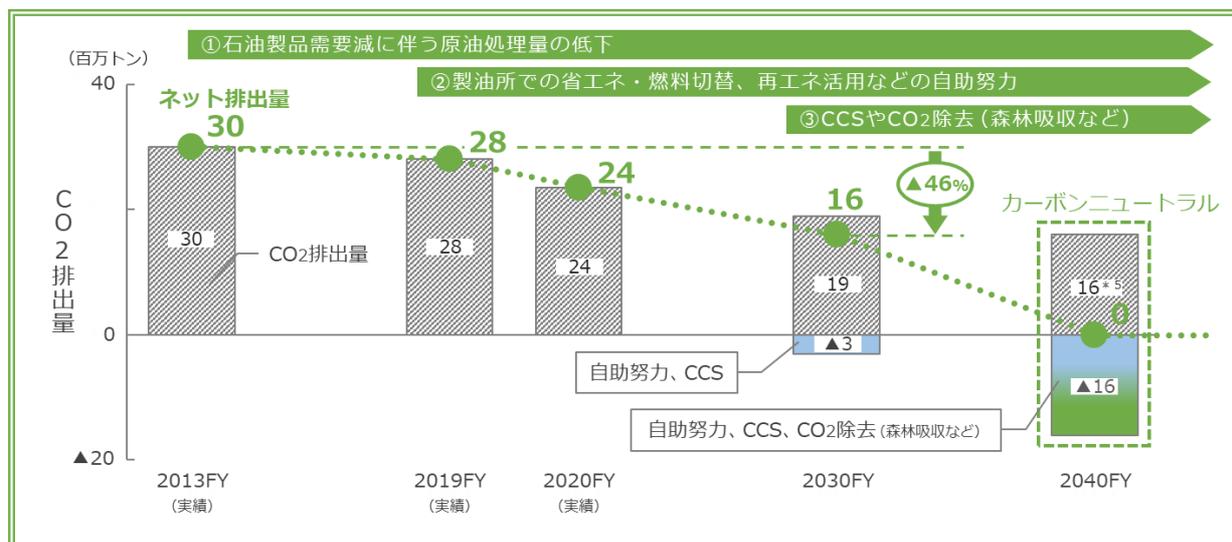
		カーボンニュートラル計画	2020年5月公表 (参考) 環境ビジョン
目標設定	2030年度	スコープ1、2 ネット排出量▲46%削減 <small>政府目標と整合</small>	—
	2040年度	スコープ1、2 カーボンニュートラル (ネット排出量ゼロ) <small>政府目標と整合</small>	自社排出分に関して カーボンニュートラル実現
	2050年度	スコープ1、2 カーボンニュートラル (ネット排出量ゼロ) スコープ3 政府・他企業と歩調を合わせて取り組み、 カーボンニュートラル実現を目指す	—
定義	目標管理	CO ₂ 排出量* ³	CO ₂ 削減量* ⁴
	CO ₂ 除去手段	「CO ₂ を直接除去する手段」のみをカウント	「再エネ販売」、「環境配慮型 商品販売」をカウント

※3 基準年度：2013年度

※4 基準年度：2009年度

スコープ 1、2

- ✓ CO₂排出量▲46%目標達成のため、2030年度までにCCS事業開始を目指す
- ✓ 自助努力およびCCSやCO₂除去（森林吸収など）によりカーボンニュートラルを達成



スコープ 3

- ✓ 政府・他企業と歩調を合わせて取り組み、2050年度カーボンニュートラル実現を目指す
- ✓ 再エネ拡大、水素・SAF*⁶・合成燃料等の早期実用化を通じ、エネルギートランジションを推進

※5 2020年5月公表の2040年度排出量見通し17百万トンから見直し（最新の状況を踏まえた精度向上）

※6 SAF: Sustainable Aviation Fuel 持続可能な航空燃料